

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン タカギガクエン 学校法人 高木学園								
フリガナ大学の名称	フクオカコクサイイリョウフクシダイガク 福岡国際医療福祉大学 (Fukuoka International University of Health and Welfare)								
大学本部の位置	福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6番40号								
大学の目的	福岡国際医療福祉大学は、教育基本法及び学校教育法に基づき、「生命の尊厳、生命の平等」を建学の精神とし、病める人も、障害を持つ人も、健常な人も、互いを認め合って暮らせる「共に生きる社会」の実現を目指すとともに、保健医療福祉に関する理論と応用の教授研究を行い、幅広く深い教養及び総合的判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、保健医療福祉に関する指導者とその専門従事者を養成し、地域医療はもとより国際社会にも貢献し得る有能な人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的	診療放射線学科は、基礎から高度な専門技術まで、時代が求める質の高い医療の実現のためのハイレベルな専門知識と最先端技術を修得し、臨床現場における対応力を培い、社会に貢献する診療放射線技師の育成を目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	大学本部所在地 診療放射線学科所在地
	医療学部 [Faculty of Medical Science] 診療放射線学科 [Department of Radiological Sciences]	年	人	年次人	人	学士 (診療放射線学) 学位の英文名 [Bachelor of Radiological Sciences]	令和6年4月 第1年次	福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6番40号 (本館) 福岡県福岡市早良区百道浜2丁目4番16号 (2号館)	
	計	—	60	—	240				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	特になし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医療学部診療放射線学科	講義	演習	実験・実習	計				
		87科目 (89科目)	12科目	14科目	113科目 (115科目)	128 単位 (130単位)			
教員の組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
	新設分	医療学部 診療放射線学科	5 (4)	3 (2)	5 (3)	1 (0)	14 (9)	2 (0)	37 (30)
		計	5 (4)	3 (2)	5 (3)	1 (0)	14 (9)	2 (0)	37 (30)
	既設分	医療学部 理学療法学科	4 (4)	0 (0)	6 (6)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	47 (47)
		医療学部 作業療法学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	51 (51)
		医療学部 視能訓練学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	66 (66)
		医療学部 言語聴覚学科	5 (5)	2 (1)	2 (1)	4 (1)	13 (8)	0 (0)	55 (31)
		看護学部 看護学科	12 (12)	7 (7)	7 (7)	3 (3)	29 (29)	2 (2)	41 (41)
		計	29 (29)	12 (11)	19 (18)	15 (12)	75 (70)	2 (2)	— (—)
合計		34 (33)	15 (13)	24 (21)	16 (12)	89 (79)	4 (2)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		43 (42)	1 (1)	44 (43)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)	0 (0)	3 (3)					
	そ の 他 の 職 員		13 (12)	0 (0)	13 (12)					
計		59 (57)	1 (1)	60 (58)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	21,590.08㎡	0 ㎡	0 ㎡	21,590.08㎡	借用面積： 9,909.25㎡ 借用期間：30年				
	運 動 場 用 地	745.71㎡	0 ㎡	0 ㎡	745.71㎡					
	小 計	22,335.79㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,335.79㎡	その他は本館敷地11,558㎡のうち福祉施設相当分				
	そ の 他	532.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	532.00㎡					
合 計		22,867.79㎡	0 ㎡	0 ㎡	22,867.79㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		24,273.53㎡ (24,273.53㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	24,273.53㎡ (24,273.53㎡)	借用面積： 7,775.11㎡ 借用期間：30年				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	27 室	21 室	45 室	3 室 (補助職員 2人)	2 室 (補助職員 2人)	語学学習施設は情報処理学習施設の一部と共用				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		大学全体				
		医療学部 診療放射線学科		個室50、共同3 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	診療放射線学科	30,247 [1,002] (29,797 [966])	316 [62] (316 [62])	5,433 [3,749] (5,433 [3,749])	2,046 (2,037)	3,695 (3,392)	37 (37)			
	計	30,247 [1,002] (29,797 [966])	316 [62] (316 [62])	5,433 [3,749] (5,433 [3,749])	2,046 (2,037)	3,695 (3,392)	37 (37)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		780.61 ㎡		276 席	32,000 冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		1,245.37 ㎡		テニスコート兼フットサルコート 1面 (745.71㎡)						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	16,237千円	9,482千円	9,482千円	9,482千円	9,482千円	—千円	—千円	
	設備購入費	36,471千円	220,172千円	24,984千円	0千円	0千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次			
	1,550千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入雑収入ほか							

大学等の名称	福岡国際医療福祉大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学員 年次人	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	福岡国際医療福祉大学						1.08	平成31	福岡県福岡市早良区百道浜3丁目6番40号(本館)	令和5年4月1日開設
	医療学部						1.07	平成31		
	理学療法学科	4	40	-	160	学士(理学療法学)	1.09	平成31		
	作業療法学科	4	40	-	160	学士(作業療法学)	1.10	平成31		
	視能訓練学科	4	40	-	160	学士(視能訓練学)	1.03	平成31		
	言語聴覚学科	4	40	-	160	学士(言語聴覚学)	-	令和5		
	看護学部						1.10	平成21	福岡県福岡市早良区百道浜1丁目7番4号(1号館)	令和3年4月1日より、国際医療福祉大学から福岡国際医療福祉大学へ設置者変更。併せて福岡看護学部から看護学部へ学部名称変更
看護学科	4	100	-	400	学士(看護学)	1.10	平成21			
附属施設の概要	該当なし									

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人高木学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
福岡国際医療福祉大学			
医療学部			
理学療法学科	40	—	160
作業療法学科	40	—	160
視能訓練学科	40	—	160
言語聴覚学科	40	—	160
看護学部			
看護学科	100	—	400
計	260	—	1,040
専門学校柳川リハビリテーション学院			
理学療法学科	40	—	120
作業療法学科	40	—	120
言語聴覚学科	40	—	120
計	120	—	360
大川看護福祉専門学校			
看護学科	40	—	120
介護福祉学科	40	—	80
計	80	—	200

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
福岡国際医療福祉大学				
医療学部				
理学療法学科	40	—	160	
作業療法学科	40	—	160	
視能訓練学科	40	—	160	
言語聴覚学科	40	—	160	
診療放射線学科	60	—	240	学科の設置 (認可申請)
看護学部				
看護学科	100	—	400	
計	320	—	1,280	
専門学校柳川リハビリテーション学院				
理学療法学科	40	—	120	
作業療法学科	40	—	120	
言語聴覚学科	40	—	120	
計	120	—	360	
大川看護福祉専門学校				
看護学科	40	—	120	
介護福祉学科	40	—	80	
計	80	—	200	
専門学校福岡医療経営学院				
医療事務科	40	—	80	専修学校の設置 (認可申請)
診療情報管理専攻科	40	—	40	
計	80	—	120	

教育課程等の概要															
(医療学部診療放射線学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総	人間系	心理学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		哲学	1・2・3・4前		1		○								兼1
		倫理学	1・2・3・4後		1		○								兼1
		文学	1・2・3・4前		1		○								兼1
		教育学	1・2・3・4後		2		○								兼1
		教育方法論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		コミュニケーション概論	1・2・3・4後		2		○								兼1
	小計（7科目）	—	0	11	0	—			0	0	0	0	0	兼6	
合	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	2前	1			○								兼1
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	2・3前・後	2					○						兼1
		アジア比較文化論	1・2・3・4前		1			○							兼1
		法学	1・2・3・4前		1			○							兼1
		経済学	1・2・3・4後		1			○							兼1
		社会学	1・2・3・4前		1			○							兼1
		国際医療福祉論	1・2・3・4後		2			○							兼1
		社会保障制度論	1・2・3・4前		2			○							兼1
		ボランティア論	1・2・3・4後		1			○							兼1
		ボランティア実践	1・2・3・4後		1					○					兼1
	小計（10科目）	—	3	10	0	—			0	0	0	0	0	兼10	
育	自然・情報系	生物学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		生化学	1・2・3・4前		2		○			1					
		物理学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		データサイエンス	1・2・3・4後		2		○								兼1
		医療とICT	1・2・3・4後		2		○								兼1
		生命倫理	1後	2			○								兼1
		人間工学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	小計（7科目）	—	2	12	0	—			1	0	0	0	0	兼6	
科	体育系	健康科学理論	1・2・3・4前		1		○								兼1
		健康スポーツ実践	1・2・3・4後		1									○	兼1
		小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼1
目	総合系	大学入門講座*	1前	1			○			1					兼5 オムニバス
		小計（1科目）	—	1	0	0	—			1	0	0	0	0	兼5
目	外国語系	医学英語Ⅰ（基礎） ※2	1前	1			○					1			兼1
		医学英語Ⅱ（応用） ※2	1後	1			○					1			兼1
		英会話 ※1 ※2	1・2・3・4後		1			○				1			兼1 *1から3単位以上選択
		韓国語 ※1	1・2・3・4通		2			○							兼1 *1から3単位以上選択
		中国語 ※1	1・2・3・4通		2			○							兼1 *1から3単位以上選択
	小計（5科目）	—	2	5	0	—			0	0	1	0	0	兼4	
目	日本語科（留学生）	日本語Ⅰ（話す） ※2	1・2・3・4前	1			○								兼1 留学生は*2必修
		日本語Ⅱ（説明する） ※2	1・2・3・4後	1			○								兼1 留学生は*2必修
		日本語Ⅲ（語彙・文法） ※2	2・3・4前	1			○								兼1 留学生は*2必修
		日本語Ⅳ（総合） ※2	2・3・4後	1			○								兼1 留学生は*2必修
	小計（4科目）（留学生）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼4	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	統計学	2前	2			○									兼1	オムニバス・一部共同
	公衆衛生学	2後	2			○									兼1	
	救急医学	2後		1		○									兼1	
	感染と免疫	2・3・4後		2		○			1							
	関連職種連携論*	2後	2			○			1						兼7	
	関連職種連携ワーク	3前	1				○								兼1	
	ケアマネジメント論	2・3・4前		1		○									兼1	
	保健医療福祉制度論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	臨床心理学概論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	基礎数学	1前	1				○				1					
	自然科学概論	1前	1			○				1						
	基礎物理学	1後	1			○			1							
	基礎化学	1後	1			○				1						
	基礎生物学	1後	1			○			1							
	基礎生化学	1後	1			○			1							
	解剖学Ⅰ(運動器系・循環器系・内臓系)	1前	1			○			1							
	解剖学Ⅱ(内臓系・神経系・感覚器系)	1後	1			○			1							
	生理学	1後	1			○			1							
	病理学	1後	2			○									兼1	
	病態生理学	2後	1			○									兼1	
	臨床医学概論	1前	2			○									兼1	
	放射線救急医学	3前	2			○			1							
	自然科学実験	1前	1					○	1		1				共同	
小計(23科目)		—	24	8	0		—	4	2	2	0	0		兼16		
専門基礎科目	応用数学	1後		1		○					1					共同
	放射線物理学Ⅰ(基礎)	1後	1			○			1							
	放射線物理学Ⅱ(発展)	2前	1			○			1							
	放射線計測学	2前	1			○			1							
	放射線科学演習	2後		1			○		1							
	放射線計測学実験	2後	1					○	1		1	1	2		共同	
	放射化学	2前	1			○				1						
	放射線生物学	2前	1			○			1							
	画像解剖学	2後	2			○			1							
	医療画像情報学Ⅰ(基礎)	2前	2			○			1							
	医療画像情報学Ⅱ(発展)	2後	2			○			1							
	医療画像情報学実験	3前	1					○			1	1	2		共同	
	医用工学	1後	1			○			1							
	医用工学演習	2前	1				○			1						
	コンピュータ演習Ⅰ(データ処理)	1後		1			○				1					
	コンピュータ演習Ⅱ(プログラミング)	2前		1			○				1					
	医療情報システム論	3前	1			○					1					
	診療画像機器学Ⅰ(X線機器)	1後	2			○					1					
	医療安全管理学	3前	2			○					1					
	診療放射線概論	1前	1			○			1							
	診療画像検査学概論	1前	1			○			1							
	X線検査学Ⅰ(一般撮影)	2後	2			○			1							
	X線検査学Ⅱ(特殊撮影・造影検査)	2後	2			○			1							
X線CT検査学	2前	2			○			1								
診療画像機器学Ⅱ(CT/MR/眼底カメラ)	2前	2			○					1						
MRⅠ検査学	2後	2			○					1						
超音波検査学	2前	1			○					1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	診療画像検査学実習Ⅰ (X線撮影検査)	2前	2					○		1	1	1	2	共同 共同
	診療画像検査学実習Ⅱ (CT/MR/US)	2後	2					○		1	1	1	2	
	核医学検査技術学	2後	2			○				1				共同
	核医学臨床技術学	3前	2			○				1				
	核医学検査技術学実習	3前	2					○		1	2			共同
	放射線診療プログラミング演習	2前		1			○				1			
	放射線治療機器工学	2後	2				○				1			共同
	放射線治療技術学	2後	2				○				1			
	放射線腫瘍学	3前	2				○				1			共同
	放射線治療技術学実習	3前	2					○		1	2	1	1	
	臨床医学Ⅰ (基礎)	2後	1					○		1				共同
	臨床医学Ⅱ (発展)	3前	1					○		1				
	放射線管理学	2後	2					○				1		共同
	放射線管理学実験	2後	1						○			2	1	
	放射線関係法規	3前	1					○			1			兼1
	画像診断学	4前	1					○		1				
	画像診断学演習	4後		1					○			1		兼1
	臨床薬理学	3前	1					○						
	実践臨床画像学	3前	2					○		1				共同 共同
	診療画像検査学臨床実習	3後	8						○	2	1	3	1	
	核医学検査技術学臨床実習	3後	2						○	1	1		1	共同 共同
	放射線治療技術学臨床実習	3後	2						○	1	1		1	
	放射線科学特論	4前	2					○				1		兼1
	放射線学演習Ⅰ (基礎)	4前	2					○				1		
	放射線学演習Ⅱ (総合)	4後	2						○		1			共同 共同
	放射線腫瘍学特論	4前		1				○		1				
核医学特論	4前		1				○			1			共同 共同	
MRⅠ検査学特論	4前		1				○				1			
画像情報学特論	4前		1				○		1				共同 共同	
卒業研究Ⅰ (調査・計画)	3後	1						○	4	2	4	1		2
卒業研究Ⅱ (研究報告)	4前	1						○	4	2	4	1	2	
小計 (58科目)		—	81	10	0			—	5	3	4	1	2	兼1
合計 (113科目)		—	113					—	5	3	5	1	2	兼38
学位又は称号	学士(診療放射線学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係以外)									
卒業要件及び履修方法					授業期間等									
卒業要件単位 必修113単位 (総合教育科目8単位、専門基礎科目24単位、専門科目81単位) 総合教育科目のうち、人間系から2単位以上選択を含め6単位以上選択、外国語から※1科目から3単位以上選択。 専門基礎科目と専門科目合わせて選択6単位以上。 合計128単位以上 (履修科目の登録の上限: 49単位 (年間)) ※2 日本語科目 外国人留学生を対象とし、「日本語Ⅰ」～「日本語Ⅳ」(計4単位) 必修科目として開講する。(留学生については「韓国語」「中国語」の履修は要しない) また、外国語は「医学英語Ⅰ」、「医学英語Ⅱ」、「英会話」を必修とする。 合計130単位以上 (履修科目の登録の上限: 49単位 (年間))					1学年の学期区分			2期						
					1学期の授業期間			15週						
					1時限の授業時間			90分						

授 業 科 目 の 概 要			
(医療学部診療放射線学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合教育科目 人間系	心理学	医療現場における治療関係の構築やリハビリテーションの課程において必要となる、人間行動の理解のために、エビデンスを用いた説明を行い、医療人としての基礎を養う。	
	哲学	「哲学って言葉は聞いたことはあるけど、何するのか全くわからない」という学生に向けた入門授業を目指す。「哲学」と聞けば、おじさん（おじいさん？）たちがよく分からないことを「あーだこーだ」言い合っているというイメージもあるだろう。確かに哲学には（他の学問と同じように）固有の難しさがあるが、いざ勉強しようと思えば入門は他の学問に比べて容易である。というのも、哲学が哲学であるのは「何を探求するか」ではなく、「どう探求するか」だからである。すなわち、「哲学的に考える」ことで、あらゆる事柄が哲学の対象となる。この授業では、哲学的な知識の獲得ではなく、哲学的な思考方法を身につけることを目指す。身近な話題や時事的なテーマがどのように哲学的な問題につながるのかを、関連する哲学者やその思想を紹介しながら、学生とともに検討する予定である。	
	倫理学	倫理的な思考法と自身・他者の考えを吟味する議論法、そして自らの意見を論理的に述べる論述法を学ぶ。人の命に関わるテーマに関して、その倫理的背景を補足的に講義しつつ、学生主体の議論形式の授業を行う。具体的な状況において、「その状況にはどんな問題があるのか。その状況で我々はどうすべきか、そしてその根拠は何か。」を自ら思索し、他者と議論することで、自分の意見を論理的・説得的に他者に伝えることを学ぶ。倫理学的な知識の獲得ではなく、様々な倫理的問題に関して思索し議論を行うことで、倫理的な思考法と議論法を身につけることを目標とする。	
	文学	日本の作家による近代文学作品を読む。各作家の経歴や代表作、作風などについて学ぶことにより、作家個人や文学グループをはじめとする文学史の基本的知識を身につける。また、各作家の作品一篇を丁寧に読むことにより、基本的な解釈の仕方を学び、さらに近代という時代への理解を深める。	
	教育学	本講は、国際間にとどまらない様々な「他文化者」が存在する現実の医療現場の中で、自らがどのような他者理解を行なってゆけばよいのかを、「言語」や「文化」の教育を通じて考察するものである。現実社会（医療現場）の「他文化者」は、「他世代」の「外国人」であったり、「国内他地域」に暮らしてきた「同世代」であったりする。そこで本講では、受講生自身が生活史、生育史のなかで享受してきた地域文化、世代文化の比較等をも考察の基軸に据え、飯田の用意する様々な日常的異文化接触の事例を考察することで、複眼的な文化理解・人間交流の視点を修得し、多角的な視野をもった医療人となることを目指す。 毎回の授業では、それぞれのテーマ（課題）に対する飯田の見解を一つだけ提示する。受講生は毎回の授業終了後、そのテーマ（課題）について、飯田とは異なる視点から考察を行なっておくこと。これを各自の「復習課題」とする。期末試験では、各自が最も関心を持ったテーマについて、学期中にこの「復習課題」でおこなった自身の考察を論述するという形態にする。	
	教育方法論	教育方法論では、教育方法の基本原則や授業設計・評価等に関する知識とともに今日の学校教育をめぐる諸問題を取り上げ議論していく予定である。学校教育法第三十条に述べられている「確かな学力」（「基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力その他の能力及び主体的に学習に取り組む態度」）の理念の具現化を図るための学習指導や学習評価の在り方等についての講義や演習を通して、情報の理解・選択・処理能力や本質理解能力を育成する。また、確かな学力の定着・向上を目指した学習指導や教材作成に関する議論を通して、課題対応力や実践的指導力及び人間関係形成・社会形成能力を培う。	
	コミュニケーション概論	コミュニケーション力という言葉がよく聞かれるようになりました。とくに、医療現場では、さまざまな意味でコミュニケーション力が求められます。職務を効率的にミスなくこなすためのコミュニケーション、人間関係を形成するコミュニケーションなどひとことでコミュニケーションといっても様々な側面があります。この授業では、コミュニケーションに関する知識とスキルを心理学の視点から学び、医療現場で必要とされるコミュニケーションを中心に、日常的な出来事や体験に目を向けながら理解を深めていきたいと思います。	

総合教育科目（つづき）	社会系	海外保健福祉事情Ⅰ（講義）	当大学の教育目標である海外で活躍できる人材育成の第一歩として、海外研修がある。夏季と冬季に実施されるアジアでの海外研修に先立ち、訪問国の医療・福祉・文化に興味・関心を持ち、有意義な研修を実施するための知識を獲得し、自ら訪問国の情報収集することにより安全で適切な研修をする準備を行う。		
		海外保健福祉事情Ⅱ（実習）	訪問国毎のグループ学習にてより具体的な情報の共有と集団行動を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。この学習により研修への積極的な参加を可能にする。 訪問国の医療大学教員・学生と交流、病院や福祉施設を見学、訪問国の医療事情や福祉の現場の講義を聴くことで、訪問国の医療福祉と文化の一端を具体的に理解する。Tomodachi Hourなどの異文化コミュニケーションを通し、他国の理解と共に日本について理解を深める。 研修中の体験や思いについて帰国後様々な形で報告し、今後の海外活動の第一歩とする。	共同	
		アジア比較文化論	この講座では、前半で食卓の箸、仏壇の位牌、飲食物など日常生活の中にある事物に着目して、日本とアジア諸国、とりわけ東アジアの文化比較を試みる。文化の根幹をなす思想や宗教をはじめ、文化の伝播を促した政治経済と、独自の発展をもたらした要因を通時的に分析することとし、後半では文学、宗教思想にも踏み込む。現存する文化事象の由来に着目することで、未来の新たな文化をデザインする創造性と世界に向けた発信力について考察する。		
		法学	法律というと敷居が高く自分には関係ないと思われがちだが、普段気が付かないだけで私たちの日常生活では法律が網の目のように張り巡らされている。 本授業では六法を扱い、それぞれがどのような法律であるのかを学び、それが私たちの生活にどのように関わっているのかを学ぶ。また、医療従事者として働く上で必要となる、個人情報保護法についても講義を行う。		
		経済学	この講義は、はじめて経済学を学ぶ学生が経済学に親しみ、基礎的な内容を理解できるようにすることを目標にする。具体的には、消費者（家計）や生産者（企業）の経済行動の目的、需要や供給、価格、市場や政府活動などの経済の基本的な事柄を順に学んでいく。		
		社会学	社会学という学問がどのような方法論やアプローチで問題を分析するのかを理解し、社会における様々な問題を考える際、社会的な視点を持って考えられるようになることを目的とする。受講生との双方向授業を目指します。毎時間、受講生をランダムに指名して質問に答えてもらう予定である。		
		国際医療福祉論	諸外国の医療福祉制度について講述する。本講義では、欧米とアジア諸国の医療福祉制度を紹介し、それぞれの国の特徴や最近の動向を概観する。諸外国の医療福祉制度を理解することを通じ、日本の医療福祉制度の課題を探り、今後どうあるべきかを考えていく。		
		社会保障制度論	個人の努力だけでは対応が難しい困難に対し生活の安定化を図り、国民に最低生活を保障する社会保障制度について、各制度（社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生および医療）の目的や具体的な保障内容などを学ぶ。 社会保障の内容はその時々々の社会情勢に大きな影響を受ける。社会保障の内容の変遷を学び、現在の社会情勢が、今後どのような変化をもたらすかを考える。		
		ボランティア論	ボランティアについての基本的知識を深め、ボランティア組織の運営とその実際を学ぶ。また、自らの気づきをもとに、他者への共感、共有を促し、福祉的視点を身につける。		
		ボランティア実践	実践したボランティア活動を単位認定する。 ここでいう「ボランティア活動」とは、主催者や指導者の下で行われ認証される活動で、1回が1時間以上の活動とする。 学生はボランティアを実践した際、「ボランティア活動記録ノート」に主催者や指導者の押印もしくは署名をもらう。 実質活動時間が30時間以上（1時間は60分、未滿は切り捨て）得られた時点で単位申請を行うことができる。 科目の説明は新生入生及び各学科オリエンテーションで実施する。 またGoogleクラスルームに掲載する講義録画を視聴する。		
		自然・情報系	生物学	医療に関する専門教科、科目を理解する上で必要となる、基本的な生物学の知識を習得する。特に、疾患の理解に不可欠な細胞学、微生物学、生理学分野を中心に学ぶ。また、現在の生物学の中心であるDNAと遺伝のしくみに関する理解を深める。	
			生化学	本講義では生化学を学ぶための基礎知識から、主要な生体高分子である糖質、脂質、タンパク質の基本的な構造と生体内での機能について講義する。生体成分であるビタミン、無機質、ホルモン、また、生体内でおこる化学反応（代謝）について説明する。さらに、核酸の構造および遺伝情報の伝達（複製、転写、翻訳）についても述べる。	

総合教育科目（つづき）	自然・情報系（つづき）	物理学	人体の動きから人体内部の生命現象に至るまで、生物といえども物質が関与する現象は物理学の現象に従っている。また、医療の現場である病院は医療機器に満ちていて、これらの医療機器は物理学の原理に従って動作をしている。この講義は医療系で学ぶ学生に知っておいて欲しい物理学の講義を行う。	
		データサイエンス	ビッグデータに統計的な分析を行いデータの分類と収集、統計的解析、機械学習や人工知能技術の理解が必要となる。本講義では、データサイエンスの理解に必要な専門用語、考え方を学び、診療現場で広がりを見せているAIの内容を理解しながら、必要なデータサイエンスについて考えるきっかけとする。	
		医療とICT	医療の分野では情報化と情報の有効な利用が求められている。医療情報とは何か、その特性や概念を学び、さらにそれらを有効に利用するためのシステム化や、医療の各分野における情報の共有について学んでいく。また、医療制度、医療情報システムの電子化の利点や欠点、PCの基礎、ネットワーク、情報セキュリティ、個人情報保護を学びながら、病院情報システム、電子カルテデータの活用意義、チーム医療や地域包括ケアシステムでのICTの利活用等について考えることを目標とする。	
		生命倫理	近年、医療現場では診断技術、医療技術の進歩に伴う様々な難しい判断や対処が日々求められている。従って、再生医療あるいは遺伝子治療などの先端医療に関する基本的知識を身につけることはもとより、死をめぐる問題や終末期医療など新たに医療現場に生じている諸問題を正しく理解しておく必要がある。 重要なことは、それらに関連して現実提起されている種々の問題を自分の目を通して、生命の尊厳・生命の平等の立場から深く考えたり、医療に対する価値観や倫理観を養ったりすることである。 本授業では、医療現場における生命倫理と深く関わる種々の問題を知るとともに、医療者として日々求められる医療的判断や行動の基盤としての生命倫理を学ぶ。	
		人間工学	人間工学は人間の心理的・生理的・身体的能力と限界を理解し、安全・快適・健康な生活の保持・向上に貢献する学問である。本授業では将来の理学療法士、作業療法士、又は視能訓練士が現場に人間工学的な知識を応用できるように人間工学の基礎、考え方、実践方法を解説する。	
	保健体育系	健康科学理論	生涯にわたり健康的な生活を送る態度を身につけるための健康づくりに関する正しい基礎知識を学ぶ。特に、健康・体力づくりを基本とし、健康を維持増進していくため身体活動の知識を修得するとともに、積極的に生活の中に運動・スポーツを中心とした身体活動を取り入れていく態度を養う。また、健康づくりに必要な知識と身体活動の基礎を学びながら、身体活動（運動・スポーツ・レクリエーション活動）を支援できる技術と能力を修得する。	
		健康スポーツ実践	身体活動（運動・スポーツ・レクリエーション）の心身への影響について実践を基に理解する。特に、生涯を通して運動・スポーツに親しむ態度を育てることを目標に、健康づくりのための適切な身体活動について理解を深め、実践するための方法について学ぶ。また、対象に合わせた身体活動を支援できる技術と能力も修得する。	
	総合系	大学入門講座	新入生全員を対象とした初年次教育講座と位置づけ、高等学校時代とは異なる大学生としての生活の仕方や勉強の仕方、本学の理念や沿革、レポートの書き方を学習する。またメンタルヘルスやアルコール、喫煙、ドラッグなど心身に与える影響について早い段階で学習し、正しい生活習慣を身につけることを目標とし、4年間の大学生活を有意義に乗りこえるものとして過ごせるような基盤づくりをする。さらに、医療人としての心構え・態度なども学習する。本学の三つの基本理念に基づく、七つの教育理念を理解することで、在学中の勉強や実習、学生生活、卒業後の職業人・社会人としての生き方に一貫した道が見えてくる。そのことの本質をそれぞれの分野のトップの具体的な話の中から理解していく。そうした鳥瞰図を理解して初めて自分が今何を学んでいるかがわかるようになる。人格形成、専門性、学際性、情報科学技術、国際性、自由な発想、新しい大学運営、の七つの教育理念それぞれが持つ意味を理解する。	共同
		医学英語Ⅰ（基礎）	海外研修、旅行でも実際に必要となる英会話や知識を含め、医療従事者が最低限必要な現場で使われる重要な英語表現を実践的に学ぶ（参加型授業）	
		医学英語Ⅱ（応用）	国際化にふさわしい英会話能力の向上を図り、さまざまな患者への対応に合わせた効果的な医学英語を学ぶ（参加型授業）	
英会話		この講義では、言語の4技能のうちの、＜話す力＞を養成することを中心に授業を進めていく。日常生活のさまざまな話題についての基本的な受け答えなど、日常的な会話を習得する。ただ言葉を学ぶのではなく、Listeningスキルを強化しながらSpeakingスキルを高めることを目標とし、会話を通して文化と異文化コミュニケーションの理解を高める。		
外国語系	韓国語	韓国語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。韓国文化理解・認識を深める。		

総合教育科目(つづき)	外国語系(つづき)	中国語	医療現場で使われる中国語常用会話を中心とした授業。中国語の構文、文法、語彙などの基礎力を会話形式で楽しく修得する。目標は、 1. 基礎的な構文、文法、必須語彙を会話を通じて身につける。 2. 最低限の必須文をマスターし、初歩的なコミュニケーションの基礎作りを目指す。 3. 医療現場でよく使われるシンプルな中国語会話で、簡単なコミュニケーションが出来るようになる。「こんにちは」「保険証はありますか」「内科はどこですか」「のどが痛いです」「熱ができました」などを学ぶ。	
		日本語Ⅰ(話す)	大学での修学に必要な日本語能力を身につけることを目標とし、併せて日本の文化について学ぶこととする。本科目では、大学で学ぶための「日本語を聴く力」と「日本語を話す力」に重点を置く。そのため、視聴覚教材(NHKニュース等)を聴き、その後、質疑応用を行いながら授業を進める。教材を通して日本の文化についても学ぶ。	※留学生のみ
		日本語Ⅱ(説明する)	「日本語Ⅰ」を履修した者に対して、大学で学ぶための「日本語を書く力」に重点を置いて授業を進める。視聴覚教材(NHKニュース等)を聴き、要点をまとめる練習を行い、2000字程度のレポートが書けるようになることを目指す。教材を通じて、日本の歴史や文化をさらに深く学ぶこととする。	※留学生のみ
		日本語Ⅲ(語彙・文法)	本科目では、日本語の文章の読解力と表現力を学ぶ。医療に関するテーマでさまざまな資料を読み進め、理解を深め、事実や意見を論理的に考える力を身につける。教材には、「安楽死と尊厳死」「脳死と臓器移植」などのテーマを取り上げ、現代医療が抱える課題についても学ぶこととする。	※留学生のみ
		日本語Ⅳ(総合)	本科目では、日本語の「読む」「聴く」「書く」「話す」力を総合的に高めることを目標とする。併せて、現代の大学生として相応しい高い教養の修得も目指す。教材として、「ハーバードの人生を変える授業」及び「13歳からのいのちの授業」を使用する。毎回、これらの文献(日本語)を読んだ後、テーマを設定して討論を行う。その後、グループごとに文章としてまとめ、総合的な日本語力を高める。	※留学生のみ
専門教育科目	専門基礎科目	統計学	医療福祉系のための統計学の基礎講座である。統計学についての「統計用語」の意味を理解し、データの分析・解釈方法等の基礎知識を身につけ、統計的手法の習得と共に、その統計の目的、統計的結果について正しく理解することを目的としている。	
		公衆衛生学	公衆衛生は、集団、地域、家族などを対象として、疾病の予防、寿命の延長、身体的・精神的健康と能力の増進を進めるための科学であり、技術である。その基本的な考え方を理解し、目的を達成するための方法論、実践活動を学ぶ。 公衆衛生の実践に当たっては、特定の集団における健康に関連する状況や事象の分布や、それらに影響を及ぼす因子を知るための疫学が重要である。疫学の方法論と重要な基本データについて学ぶ。 保健医療制度、感染症、母子保健など各分野別の課題と施策について学ぶ。	
		救急医学	救急医療の歴史、救急医療のシステムと現状、救急患者の観察法、バイタルサインの意味、様々な症状、治療行為(救急処置のA,B,C等)、災害医療等を学ぶ。	
		感染と免疫	感染症は病原体(細菌・ウイルス・真菌・原虫)が原因となり引き起こされる疾病です。病原体の性質を理解し疾病が生じるしくみを総論的に講義します。次に、病原体の感染に対して生体を守る機構である生体防御、すなわち免疫機構の基礎について総論的に整理します。さらに、各感染症に対する予防法、治療法についての基本的な考え方を整理します。最後に、おもな病原微生物およびそれが引き起こす感染症について講義します。	
		関連職種連携論	保健・医療・福祉の統合が進む社会状況にあって、その現場で働く職種には各々の専門的立場からサービスを提供すると同時に、各職種が連携し、利用者に質の高いケアを提供することが求められる。全人的支援を行うには、関連職種連携が不可欠であり、その実践のためには他職種の専門性を理解するとともに、職務の関連性やチーム医療・チームケアについて学び、関連職種との共同に必要なコミュニケーション能力を身につける必要がある。 本科目では、専門職間連携についての基本的な考え方を学ぶ。	オムニバス 一部共同
		関連職種連携ワーク	多職種で協働してケアの質を改善するための機能的なチーム形成におけるメンバーシップのあり方を学修する。	共同
		ケアマネジメント論	介護保険制度においても地域包括ケアシステムの構想は関係職種、特にリハビリテーション関係者にとっては在宅医療を推進していく中でも重要な役割であるといえる。授業においては、ケアマネジメントの事例をあげ、実践的に講義していく予定である。	

専門教育科目(つづき)	専門基礎科目(つづき)	保健医療福祉制度論	医療に携わる者は患者の社会的な背景を理解し、幅広い視点で看護を実践することが重要である。そのためには、看護に関わりの深い、保健・医療・福祉分野の法律および制度をきちんと理解しておくことが大切である。この講義では、現在のわが国の保健、医療、福祉の制度の全体像を理解することを目指す。	
		臨床心理学概論	人間行動の理解において、医療従事者として必要な事項を概説する。脳機能や脳画像との関連をもとに学ぶ内容となるが、初学者の学習を考慮して、まずは症状等を取り上げてその理解を深める。その後には脳機能との関連を復習を兼ねて学ぶ。高次脳機能障害を基本テーマとして講義を行う。	
		基礎数学	診療放射線技師にとって数学は必須の知識です。指数・対数関数、三角関数、複素数および微分・積分等をしっかり理解しない限り、放射線の基礎は理解できません。また、X線CTやMRIなど診療放射線技師が日常的に使用する機器の基本原則を理解するためにも数学は必要です。本講義では診療放射線技師に必要な最低限の数学知識の修得を目標とします。	
		自然科学概論	本講義では、自然科学の入門として、化学(特に実験に必要な化学的知識)と物理及び生物の最も基礎的な内容を学修する。1回のガイダンスの後に4回/化学、5回/物理、4回/生物の講義を行う。この講義で修得した知識を基にして、後期には基礎化学、基礎物理学・放射線物理学、および基礎生物学の4科目として基礎の学修を継続する。	
		基礎物理学	本講義では、電気と磁気、波動など物理学の最も基礎的な事柄を学ぶ。	
		基礎化学	すべての物質は原子から構成され、自然界からえられるものや人工的につくりだされるものもある。化学結合や化学反応の成り立ちなどの基礎的な項目、物理化学分野、有機化学分野、生物化学分野について基礎的な講義を行う。	
		基礎生物学	医科学系科目または放射線生物学を学ぶために必要となる生物学(人体)の基礎知識を修得する。内容は、生体の構造と機能、物質の代謝、細胞の増殖、発生と分化、遺伝、免疫などについて講義する。	
		基礎生化学	生化学の学習のために必要な化学の基礎を身に付ける。生物が生きるために必要なエネルギー源であるATPの産生経路について理解する。生体を構成する主要な物質の構造と機能、およびそれらの代謝過程について理解する。授業の後半ではDNA損傷について解説する。	
		解剖学Ⅰ(運動器系・循環器系・内臓系)	解剖学では、診療放射線学の基礎となる人体の正常構造とその体系を一年間で学びます。 解剖学Ⅰでは、人体構造の基本原則、上肢・下肢・体幹の骨格・運動器系、循環器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の解剖学を学びます。	
		解剖学Ⅱ(内臓系・神経系・感覚器系)	解剖学Ⅱでは、神経解剖学として頭蓋骨・脳・神経系の構造と神経回路を学びます。後半では、嚥下の仕組み、血液系、内分泌系について学びます。解剖学から見た放射線生物学の基礎も講義します。	
		生理学	人体の正常機能がどのように調節されているか生理学全般について概要を学ぶ。具体的には神経、感覚、筋と運動、血液、循環、呼吸、消化・吸収、腎臓、内分泌などの分野について基礎的事項を学習する。	
		病理学	疾病はどのような原因でおこり(病因)、どのような変化を生じ(病変)、どのように推移し(経過)、そして最後にどうなるか(転帰)を理解する。 それぞれの段階で組織や臓器に起こる形態的な変化が、生体の機能面にどのように反映されているかを学ぶ。病理学上の用語や医学用語の正しい意味(定義)と使い方を学ぶ。	
		病態生理学	診療放射線技師として、臨床でよく観察される疾病の起こる仕組み、疾患別の症状と徴候の原因、発生機序などについて講義する。	
		臨床医学概論	1. 一般臨床症状についての理解を深め、そのメカニズムを理解し主要な疾患について概説する。 2. 臨床医学とリハビリテーションとの関連に留意し、検査や治療の適応について概説する。 3. 臨床場面で使用される基本的な医療機器・医療行為およびリスク管理について概説する。 4. 種々の疾患・病態の治療について概説する。	
自然科学実験	自然科学の基礎となる物理学(放射線物理学)、化学、生物について実験を行うことで理解を深めると同時に、それらを支えている基礎的な技術を修得する。また、実験の結果を整理して考察を加えたレポートの書き方についても学ぶ。	共同		

専門教育科目 (つづき)	専門基礎科目 (つづき)	応用数学	ベクトルと行列、一次変換は、画像の逐次近似再構成や、フィルタ等を理解する上で必須の知識であり、近年盛んな深層学習を理解する上でも基礎となる知識である。偏微分や重積分も同様にX線CTやMRIなどの基本原理を理解する上で必要な知識であり、微分方程式は放射化学、放射物理学等の基礎科目や、感染症の拡大について理解する際に必要な基礎知識である。本講義ではこれら診療放射線技師として知っておくべき数学知識の基礎的な内容を学修する。	
	放射線物理学 I (基礎)	放射線の物理学的基礎について講義する。まず放射線の定義と種類、原子物理の基本的事項を説明する。さらにX線物理学の基礎、X線と物質との相互作用等について学び、医療における放射線利用の物理学的基礎について講義する。		
	放射線物理学 II (発展)	「放射線物理学 II (発展)」では1年後期の「放射線物理学 I (基礎)」の知識を前提に講義を進める。原子核の構造、崩壊、核反応などの原子核物理学の基礎、粒子線(電子線、重荷電粒子線、中性子線等)と物質との相互作用、放射線発生装置について講義する。さらに放射線診療における多様な放射線利用の物理的側面について説明する。		
	放射線計測学	本講義では、診療放射線技師・放射線取扱主任者・医学物理士を目指す者にとって必須である放射線計測の基本と理論、放射線検出器の原理および構造を学修する。また、放射能・放射線量・放射線エネルギーの測定および計測、放射線防護量と実用量について講義を行う。		
	放射線科学演習	放射性核種の特性・特徴を理解し、放射線が引き起こす様々な物理現象、生物作用を正しく理解し、放射性物質・放射線に対するより専門的な応用ができるように、各科目の総合的な演習と解説を多く取り入れ実践的教育を実施する。 診療放射線技師の分野にとらわれず、より広範囲な放射性物質及び放射線を取り扱う分野に適応できるように実施する。		
	放射線計測学実験	放射線計測学の理解を深めるため、実際に放射線源と放射線計測装置を用いて測定することにより放射線の特性、放射線検出器の使い方、及び放射線計測における基本的なデータ処理法を習得する。また、単なる放射能測定にとどまらず、病院実務における被曝線量測定項目も含め、学内にある装置を用いた実験形式による実践的教育を実施する。	共同	
	放射化学	放射化学は、化学的な諸問題を解決するために放射能を利用する化学の一分野である。 講義は、放射性同位体元素の性質、放射壊変、放射平衡、放射性同位体元素の取扱い、製造法、放射性核種の分離と精製法、トレーサ化学など、基礎的項目及び放射分析、放射化分析、放射化学分析など、分析化学、生化学、有機化学などの応用について行う。		
	放射線生物学	放射線は生命科学や医療の分野において時代と共に有用性を増している。放射線は「被ばく」というネガティブな側面に着眼しがちであるが、人体に対する影響に関しては長年の調査・研究の蓄積があり医療分野ではメリット・デメリットを適切に評価し利用されている。本講義の目的は診療放射線技師を目指す学生に必要な放射線生物学の理解を深めることにある。		
	画像解剖学	放射線診断学において、脳神経系、腹部、胸部、循環器系、骨格軟部系の各部位で、単純写真、CT、MRなどの画像における正常解剖を講義する。実際の人体の解剖と対応させながら、画像における解剖を解説する。造影剤やIVRについても講義する。達成度テストを用いて知識を整理し、問題も解説する。		
	医療画像情報学 I (基礎)	医療先進国ではすべての単純X線画像がアナログからデジタルX線画像に移行している。講義ではデジタルX線画を中心にその種類と最新技術について学び、画像の形成過程と、画像のデジタル化、画像のコントラスト、解像特性、ノイズ特性など物理的な特性の評価方法について学ぶ。		
	医療画像情報学 II (発展)	医療画像情報学 I に続き、画像の視覚評価と評価の実際と、画像の情報量について学び、医用画像処理や医療情報の理解と基礎となる内容を学ぶ。特にデジタルのX線撮影画像やX線CT、MRIなど画像診断装置の画像原理、これらに必要なデジタル画像処理や、3D表示、画像解析技術などを広く学ぶ。		
	医療画像情報学実験	デジタル画像の仕組みや画素値の意味について理解するために、標準化と量子化の違いによる画像の変化、DICOM画像のヘッダなどを理解することを目的に、グループによる実験を通じて学ぶ。また、自分で画像を創る喜びを味わい、チームとして行動するトレーニングも実験内容に含まれている。	共同	
	医用工学	画像診断機器には、信号を発生させるための電源やスイッチング回路、信号を検出するためのセンサー素子、信号増幅や制御のための電子回路など、様々な電気電子工学の技術が使用されている。医用工学では、画像診断機器の動作原理を学ぶために不可欠である電気電子工学の基本と論理回路を学習する。		

専門教育科目(つづき)	専門科目(つづき)	医用工学演習	医用工学の講義で学んだ内容を、実験、演習を通してさらに深く理解する。医用工学の重要な分野である、直流回路、交流回路、半導体回路について、実験で回路の特性を理解するとともに、演習では実験結果を踏まえた実践的な問題演習を行う。医用工学の実験を行い、その結果のレポートを作成することで、科学的な考え方と報告の方法を習得する。	
		コンピュータ演習Ⅰ(データ処理)	現在、画像診断、核医学画像、放射線治療はすべてデジタル化されており、コンピュータに関する知識と取り扱い技術は診療放射線技師に不可欠の能力となっている。この授業では、コンピュータ科学の基礎知識と、情報処理の実践的な演習を行うことにより放射線診断および治療の現場で必要とされるコンピュータ技術を習得する。	
		コンピュータ演習Ⅱ(プログラミング)	診療放射線技師は、画像の撮影だけでなく、画像を処理する業務に従事することが多い。画像を適切に処理するためには、画像データ構造と、処理アルゴリズムを理解することが重要である。本科目では、医用画像の構造と医用画像を取り扱うためのプログラミング技術を演習により習得し、画像処理をより実践的に理解することを目的とする。	
		医療情報システム論	個人情報保護と情報セキュリティ、病院情報システム(HIS)、放射線診療情報システム(RIS)、医用画像保管通信システム(PACS)、DICOM規格、遠隔画像診断について講義を行う。	
		診療画像機器学Ⅰ(X線機器)	画像診断機器の中で最も歴史が古く、広く普及している「診断用X線装置」について、その構成と動作原理の基本を一通り学習する。また、X線を検出するデジタルX線検出器のCRやFPDについても学ぶ。さらに、撮影に必要な散乱X線除去格子やソフトウェアによる散乱X線最新などの技術動向についても触れる。	
		医療安全管理学	患者に安全で安心に安全な医療を提供する必要がある。この講義では、医療安全文化の歴史、人的エラーの理解と回避策、放射線診療でのヒヤリハット、インシデント、アクシデントから安全に医療を提供する考え方と注意点を学びます。さらに放射線防護の観点から安全に業務を推展する知識と被ばく管理について学ぶ。	
		診療放射線概論	診療放射線技師を目指す学生が放射線診療全体を俯瞰しながら、放射線と放射能の違い、放射線の医療での活用と、医療人としてマナーおよび患者接遇、診療放射線技師の役割を理解する。さらに人体に放射線を照射することの法的根拠、保健医療のしくみについて学ぶ。	
		診療画像検査学概論	本講義では特に検査・診療機器の基本的な理解と、本論に必要な基礎的知識(特に専門用語)の修得を目的とする。加えて、診療放射線技師の臨床病院での役割と責任、および他職種との連携(チーム医療)と医療情報システムについて学習する。	
		X線検査学Ⅰ(一般撮影)	患者の心理状態と接遇と、受診環境の整備、他の医療スタッフとの関係について学んだうえで、X線の人体に対する入射方向、斜位方向、撮影の基準となる点や線、胸部、脊椎部、腹部、骨盤部、上肢、下肢などの単純X線撮影法について学ぶ。	
		X線検査学Ⅱ(特殊撮影・造影検査)	本講義では、X線検査学Ⅰで扱わなかった歯牙撮影法、頭部規格撮影、乳房撮影、拡大撮影などの特殊撮影法と、X線透視やIVR(Interventional Radiology)を含むX線造影検査、造影剤と、検査目的および検査方法、得られる画像の確認ポイントと特徴について講義する。その他、骨塩定量、眼底検査、内視鏡検査などの画像検査についても解説する。	
		X線CT検査学	本講義ではX線CT検査の発展の歴史と最新のCT装置の原理と画像再構成、アーティファクトの発生機序など、基本を学ぶ。さらに、診療で用いる撮像技術のダイナミックCT、3D表示など、各部位別(頭部、胸部、腹部、骨盤、四肢)のCT検査法について講義を行う。	
		診療画像機器学Ⅱ(CT/MR/眼底カメラ)	診療画像機器学Ⅰに続き、特にX線CT装置やMRIについて学習する。X線CTに関してはヘリカルおよびマルチスライスCTにおける画像再構成の原理、それに付随したアーチファクトについても詳しく学習する。さらにMRIの原理も学び、MRIの基本構成と動作、画像形成方法や画質、MRアンギオグラフィ、MRスペクトロスコピーなどの原理を学ぶ。さらに単純X線撮影以外の特殊撮影機器についても学ぶ。	
		MRⅠ検査学	MRⅠ検査を行うために必要となる、装置技術、撮影技術および各種のパルスシーケンスと得られる画像の臨床知識を解説する。MRI装置の安全性に関する課題を理解し、MRIの特徴を生かした検査方法を学び、臨床現場で求められる画像を提供できる撮像技術を習得する。	
		超音波検査学	超音波の物理学的な知識、各種臓器(腹部、心臓、血管、乳腺、後腹膜臓器)ごとの病態に特徴的な超音波検査所見や画像および検査手技、アーティファクトなどについて講義する。	
診療画像検査学実習Ⅰ(X線撮影検査)	各種一般撮影法・X線CT検査法について、患者接遇を含めた包括的な基本的撮影技術、得られた画像と撮影条件や整位との関係について評価・解析を行うことができる知識を修得する。また、医用X線機器工学で学修した知識をもとにして装置の特性を理解し、画像検査において一定の水準の画質を得るために要求される品質管理技術を理解する。	共同		

専門教育科目（つづき）	専門科目（つづき）	診療画像検査学実習Ⅱ (CT/MR/US)	CT・MRI・超音波装置などの装置特性の特性と検査技術および得られた検査画像の特徴を理解するための実験を行う。さらに、患者（受診者）への接遇や医療における安全管理についての意識づけなど、診療放射線技師となるための基本姿勢についても指導する。	共同
		核医学検査技術学	核医学は、短半減期の放射性同位元素を標識した放射性医薬品を人体に投与して、病態生理を機能画像として定量化する分野である。そのため、放射線物理、放射化学、放射線生物などの幅広い知識が要求される。核医学の基礎として、放射性医薬品・収集装置・画像形成の原理と画像処理および画像再構成など技術的事項を理解し、核医学臨床技術学の学修につなげる。	
		核医学臨床技術学	核医学検査および治療の臨床に必要な基礎事項を講義する。これらの目的、適応疾患、使用製剤の特徴、検査・治療方法、画像解析について重点的に学習する。必要に応じて重要症例を提示するが、臨床例は多岐にわたるので、講義中に全てを提示することは難しい。講義での基礎知識をもとに、指定教科書だけでなく、指定参考書や図書館にある図書などで、常に予習復習を行い講義に臨んで欲しい。	
		核医学検査技術学実習	核医学検査において必要となる機器を実際に操作し、その原理や特性、試料測定方法ならびに臨床応用まで幅広く理解する。実際に放射性同位元素を用いた基礎実験と、PCによるシミュレーション実験を行うことにより、核医学をより深く理解することができる。なお関連病院における核医学臨床機器の実習をグループローテーションで行う。	共同
		放射線診療プログラミング演習	医療現場で検査して得られるデジタル画像は、診断・治療の目的に応じ、画像処理するのが一般的となっている。本演習では、プログラミングの基礎を身につけ、学生自らプログラミングを行うことで、臨床で利用されているプログラミング技法を修得する。	
		放射線治療機器工学	放射線治療システムの全容を把握し、診療放射線技師として最低限必要な各装置の動作原理、動作特性、機器構成、活用法等を学び、機器の有効な活用と管理ができるようになることを目指す。また、放射線治療の重要な要素である治療計画装置のアルゴリズムや関連補助器具等についても理解を深め、より高精度な放射線治療システムの運用と照射技術について学ぶ。	
		放射線治療技術学	放射線治療は、医学知識はもちろんのこと画像診断学、物理学、生物学、計測学、加速器科学等の幅広い知見を基礎としている。ここでは、これらの初歩的知識を有することを前提として、放射線治療の概要を説明しながら、基本的考え方と基礎知識の修得を図る。講義では、外部照射・腔内照射・組織内照射に大別し、治療計画・線量計算法・線量測定法・照射方法などの基礎を教授する。また、技術偏重に陥ることのないよう心の問題についても適宜議論し、医療人としての人格形成を図る。	
		放射線腫瘍学	超高齢化社会の進行に伴い、がん患者は増加し続けている。また、がん治療が低侵襲・低負担に向かう流れの中で放射線治療の重要性と需要も飛躍的に増加しつつある。本講義の目的は診療放射線技師にとって必要な放射線腫瘍学および治療学の知識を学び、より深く理解することにある。	
		放射線治療技術学実習	放射線治療に必要な基礎技術の修得を目標とし、吸収線量測定・治療計画・モンテカルロシミュレーション・品質管理/精度管理試験などを行う。学内設置機器および国際医療福祉大学関連施設の設置機器を利用して行い、放射線治療技術の理解と知見を深める。	共同
		臨床医学Ⅰ（基礎）	胸部（呼吸器）、腹部（消化器）、脳神経系、循環器、腎尿路生殖器、内分泌、代謝、血液、感染症、膠原病、骨関節各疾患について、どんな病気か、主症状、検査診断、画像診断、治療など講義し、画像解剖の復習もしながら、基礎医学大要科目全体の知識をまとめる。	
		臨床医学Ⅱ（発展）	疾患の診断と治療といった臨床医学の概要と疾病の成因について講義する。また、医学の進歩によってもたらされた先進的診断方法や治療方法についても解説する。特に、画像診断と関連の深い疾病については、解剖生理学的な基礎を含めて講義する。また、公衆衛生学に関係する内容についても触れる。	
		放射線管理学	医療における放射線技術科学の運用・推進に関連する業務への従事に際して不可欠となる放射線の安全管理について、その理念と方策および具体的手法としての各種技術の内容を理解する。	
		放射線管理学実験	放射線計測学、放射線計測学実験、放射線管理学、関係法規などの集大成としての実験である。X線発生装置、高エネルギー放射線発生装置の安全な取扱い及び放射性同位元素の安全管理の理解を深め、測定技術や管理技術を習得するための基本的な実験を行い、実践力を養う。	共同
		放射線関係法規	診療放射線技師は高度の危険性としてあげられる放射線・放射性物質（RI）を取り扱う職業である。特にそれを人体に照射することが主な業務である。医療においては患者さん及び一般公衆の安全性を確保し、かつ自身のそして医療スタッフの安全をも確保する必要がある。国家試験科目「放射線管理学」を理解するうえで根幹をなすため、法令で定められた限度値など基準の意味をよく理解することが肝要である。	

専 門 教 育 科 目 (つ づ き)	専 門 科 目 (つ づ き)	画像診断学	画像診断について、消化器上腹部臓器疾患、呼吸器疾患、神経疾患、腎泌尿器疾患、女性器疾患、循環器疾患、骨関節疾患、頭頸部疾患に対し、X線CT、MRI、超音波など画像診断法を症例集の写真を用いながら、テキストに沿って解説する。また各種モダリティで撮像された画像の典型的な正常例と異常例についての解説も行う。	
		画像診断学演習	診療放射線技師として必要な読影技術について学ぶ。講義は実際の臨床症例を用いて、より実践的な内容で行う。また、各種モダリティで撮像された画像の典型的な正常例と異常例について演習で学ぶ。	
		臨床薬理学	医療分野における薬物治療の基礎を知るために薬理学および臨床薬理学を学ぶ。薬理学および臨床薬理学は、生体と薬との相互作用を考究する学問であるが、本授業では、前半に薬理学の総論を、後半には各論で各疾患治療薬の作用について学ぶ。	
		実践臨床画像学	医療現場における放射線機器等の取扱い、抜針・止血の手技、肛門へのカテーテル挿入からの造影剤および空気の注入、患者対応よ検査説明、医療現場での多職種との連携、医療情報の取扱いと放射線防護・安全管理について、実践的に学習する。	
		診療画像検査学臨床実習	病院等の臨床施設の指導者のもとで、診療放射線技師として必要な知識・技術の習得および医療人としての素養の充実を図る。内容は、学内で学んだ医用画像関連科目の知識・技術を発展させ、実際の臨床業務に対応できる実践力を習得するための実習を行う。また、チーム医療と診療放射線技師の役割等について理解を深めるものである。さらに各方面で活躍している先輩方の講演や、各種講義から、診療放射線技師になるために心得ておくべき放射線治療技術の最新動向を学ぶ。	共同
		核医学検査技術学臨床実習	病院等の臨床施設の指導者のもとで学内で学んだ核医学関連科目の知識・技術を発展させ、実際の臨床業務と放射性医薬品とRIの管理に対応できる実力を養成するための実習を行う。また、チーム医療と診療放射線技師の役割等について理解を深めるものである。さらに各方面で活躍している先輩方の講演や、各種講義、演習から、診療放射線技師になるために心得ておくべき放射線治療技術の最新動向情報と、知識を学ぶ。	共同
		放射線治療技術学臨床実習	病院等の臨床施設の指導者のもとで、放射線治療で重要な線量測定、線量計算、体内での線量分布などの技術と照射範囲の決定をファントムとシミュレーションで学ぶ。さらに放射線治療患者に対する接遇を学ぶ。さらに各方面で活躍している先輩方の講演や、各種講義、演習から、診療放射線技師になるために心得ておくべき放射線治療技術の最新動向を学ぶ。	共同
		放射線科学特論	診療放射線技師として働くため、これまで修得してきた専門的知識、医療人としての常識、技術、マナーなどを、診療放射線技師という専門職へと橋渡しするため、各種講義や演習を行う。医療機関や関連学会等で活躍している診療放射線技師による医療で必要とされる最先端の技術と知識および今後の展開予測に関する講話や演習を行う。さらにそれらを通じて、診療放射線技師になるために心得ておくべき事項と、卒業後に関連学会の研修や学術活動へ積極的に参加することの重要性を学ぶ。 本講義を通じて、学生自身がこれまで修得したものに対して現状に満足せず、診療放射線技師として生涯学ぶ意識づけを行い、卒業に向けて学生自身がさらなる意識向上とキャリアアップに向けた準備となる講義である。	
		放射線学演習Ⅰ（基礎）	診療放射線技師に必要な知識を確実なものとするために、これまで学んできた授業内容を復習し、総括を行う。 その他、この講義時間を利用して4学年に共通する重要事項の連絡や作業などを行う。また、この講義時間外に実力試験を実施する。	
		放射線学演習Ⅱ（総合）	診療放射線技師に必要な知識を確実なものとするために、これまで学んできた授業内容を復習し、総括を行う。 その他、この講義時間を利用して4学年に共通する重要事項の連絡や作業などを行う。	
		放射線腫瘍学特論	各種の放射線検査の対象や放射線治療の理解を深めるために腫瘍について臨床画像中心に学ぶ特論である。放射線腫瘍学特論では、放射線治療の歴史を学ぶとともに、放射線治療技術の基になる腫瘍や正常組織の性質や放射線に対する影響などについて学ぶ。特に、放射線生物学・腫瘍学の基礎、組織特異的あるいは個々の腫瘍に最適な治療法、放射線治療技術の考え方、生物学的アプローチなど、基本的手法や最新の手法について学習する。	
核医学特論	各種の放射線検査の対象や放射線治療の理解を深めるために腫瘍について深く学ぶ特論である。核医学ではPET/CTやSPECT/CTを用いた脳血流や心筋血流の定量さらには画像解析によるアルツハイマー病の早期診断が行われている。またSPECTにおけるガンマ線の検出がNaIから高感度の半導体検出器（CZT）が装備されたSPECT/CT装置が臨床に導入されている。最先端のSPECT/CTやPET/CTの講義およびそれらを用いた最新の研究成果等を講義する。			

専門教育科目 (つづき)	専門科目 (つづき)	MR I 検査学特論	最新のパルスシーケンスの原理を理解し、臨床で遭遇する各種の画像の処理を考えられるようになるための特論である。拡散テンソル画像、MRエラストグラフィなどの新たなシーケンスや、AIを用いた画像再構成が臨床に応用されている。本科目ではこれらの撮像原理と画像の臨床的有用性について、最新の論文や臨床画像を提示しながら講義を行う。また臨床現場で必ず遭遇する疾患についての医学的知識と画像所見についても詳説する。	
		画像情報学特論	前半は最近耳にする人工知能・AI技術の中の機械学習の基本部分を理解する。また、CAD（コンピュータ支援診断）の技術に関する基礎と応用技術に関する講義を行う。本講義はPCを用いてEXCELにて処理をすることにより機械学習の機能を学ぶ。 AI技術の中で情報倫理や法規に関する内容等、リテラシーを扱い、実データを使った講義を行う。 後半は画質の物理特性（入出力特性、解像特性、ノイズ特性）の評価とROC解析をPCを用いた実践形式により学ぶ。最後にマンモグラフィの最新動向を説明する。 画像情報学 I および画像情報学 II において画像の良し悪し（画質）を客観的に評価するための定量的表現法を学んだ。本講義はPCを用いた画像評価法の修得とデジタルX線画像処理に関するより専門的な体験学習を行う。	
		卒業研究 I（調査・計画）	3年生後期に全員を研究テーマ別のグループに配属し、グループ担当教員が配属学生の卒業研究について指導を行う。卒業研究 I では、3年生の10月下旬から2月にかけて文献・データ収集などを行ったうえで、研究計画の立案を行う。	共同
		卒業研究 II（研究報告）	4年生全員を研究テーマ別のグループに配属し、卒業研究 I で計画した卒業研究内容について、グループ担当教員が配属学生の指導を行う。8月に行う卒研発表会で、口頭あるいはパネルで全員が研究成果を発表し、最終的に卒業論文を完成させる。	共同